

元の皆様の自主的なご判断、あとはその持って
おられるネットワークとか情報ってすごいわけ
ですから、担い手として、例えばこういう人な
んかにいろんなことをお願いしようとか、そう
いったことなどは我々行政よりもコミュニティ
センターの皆さん、よくご存じなので、そうい
ったことを中心に、コミュニティセンターの中
で運営の理事の皆さんともそうなんですけども、
やはりいろんな判断をしながら、できますれば
市の補助金だけじゃなくて、国とかの様々な制
度を活用し、なおかつコミュニティビジネスみ
たいな形で、これからは高額ではあってはいけ
ないんですけども、全て無料ですよというのは
なかなか難しいのかなと思っておりますので、
そういった視点からもいろいろ検討いただくと、
いろんな発想が生まれてくるのかなと思ってい
るところですので、ぜひ引き続き、私ども分か
らない部分たくさんありますので、ご提言とか、
様々なご意見、ご指導いただければと思います。

○浅野敏明議長 6番、金子豊美議員。

○6番 金子豊美議員 コミュニティセンターの
職員の方と話をしてみますと、今のコミュニテ
ィ協議会の事務局の方々はずごく親切丁寧にい
ろんなお話をしてくれるということもお伺いし
ています。まだ4月にできたばかりの組織です
けども、私たちもこれから見守っていきますし、
市長のほうからもいろいろアドバイスなどいた
だきながら、よき方向に進むようお願いした
いと思います。

最後ですけども、今日資料として配付させて
いただきました、これはあやめ通りの写真です。
今月の13日前後に撮らせていただいたので、こ
れ全部同じような写真に見えますが、それぞれ
違う場所から撮った写真ですので、よろしくお
願いします。

ご覧のような状況でした。というのは、ちょ
うど先月に駅伝大会がありまして、ここはコー
スになっている。駅伝の前は、さっき建設参事

からありましたように、きれいにしていただい
たということだったんですが、その後、数週間
でこれぐらいの状態になった。民家の写真はこ
ういうふうに撮ってないんですが、民家のほう
にもかなり落ち葉が風で飛ばされているという
ような状況だったようです。この通りだけでは
ないんですが、先ほど市長の答弁からありまし
たように、沿道の方々とうまくやっていかないと
駄目なんだというようなお話をお聞きしまし
たので、その辺、今後、今までもやってきたと
思いますが、沿道の方々とのコミュニケーション
を深めながら進めていただきたいと思います。

最後に、建設参事にお伺いしますが、春と秋、
2回剪定作業などを行っているということでは
けども、こういう部分の清掃関係については、
年間どれぐらいやっておられますか。

○浅野敏明議長 小林克人建設参事。

○小林克人建設参事 お答えいたします。

春と秋ということで、剪定ですけれども、そ
れぞれ市道あやめ公園線であったり、幸町高野
線であったりということで、年に10数回ほど3
業者と契約いたしまして、道路及び街路樹の維
持管理等契約ということではしているところご
ざいます。年間数百万円ほどかかっております。

○浅野敏明議長 6番、金子豊美議員。

○6番 金子豊美議員 せっかく駅伝の前にきれ
いにしてその後こうなるという、これは自然災
害とまではいかないんですが、なかなかタイミ
ング的にも難しいなと思っています。適時状況
を見ながら、今後も回数を増やすなり、作業を
行ってくれるよう要望いたします。

私のほうからは以上で質問を終了させていた
だきます。

渡部正之議員の質問

○浅野敏明議長 次に、順位4番、議席番号3番、渡部正之議員。

(3番渡部正之議員登壇)

○3番 渡部正之議員 清和長井の渡部正之です。

昨日、本市の音楽力向上を通じ、芸術文化を発展させ、インクルーシブ社会の取組の充実を図る目的でご寄贈いただきましたスタインウェイピアノお披露目コンサートが長井市民文化会館ホールにおいて開催されました。フルコンサートピアノと言われるD-274型のとても大きなピアノはすばらしい音色であり、ご寄贈していただいた思いを強く感じる、とても心に響くコンサートでありました。今後、ご寄贈いただき、本市の宝物となったスタインウェイピアノが市民に愛され、誰もが幸せに暮らせる共生社会であるインクルーシブ社会の中心となることを心より願います。

12月定例会一般質問をさせていただきます。私からは、カーボンニュートラルを目指す森林づくりの推進についてと、山岳観光についての2項目で7点質問いたします。

初めに、カーボンニュートラルを目指す森林づくりの推進について伺います。

今年の8月10日、11日の2日間、山形・蔵王をメイン会場に、第6回山の日全国大会が開催されています。「山を想い、山を愛し、山と生きる。～樹氷輝く蔵王のやまがたから、未来へ～」という大会テーマであり、ふるさとの山への親しみ、思う心、山を愛し、山と共に生きてきた暮らしに持続可能な社会実現への鍵があり、奥深い山の魅力や山の教えを山形県から未来に向けて発信する大会にしたいという思いが込められているとのことでありました。

山の日全国大会は、山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝するという国民の祝日、山の日 of 趣旨の浸透を図るとともに、山に関する歴史や文化の継承、環境保全、観光振興や自然災害への対応など、様々な課題の解決や、山の未来

の在り方について考える機会として開催されてきております。

本市においては、SDGsの先駆けとも言えるレインボープランにおいて、循環型社会の形成と協働による持続可能なまちづくりが実践されてきました。また、今年度、本市はSDGs未来都市に選定され、再生可能エネルギーを含めた災害時のエネルギー電力供給体制の構築や、バイオガス発電施設導入の検討など、経済、社会、環境の3つの側面において未来の子供たちに引き継ぐことができるまちづくりに向けた具体的な取組が示されています。市民の誰もが、水、空気、森林といったかけがえのない自然環境を大切に未来へ引き継ごうという意識を持ち、自然と共存する持続性の高い暮らしと地域社会に向けて行動していくことが重要であります。

山との接点が少なくなってきた今、その環境を守り、育てていくことを再度考え、次代へとつなげていくことが重要と考えることから、質問いたします。

1点目です。今年度、平野小学校の3、4年生が緑の少年団に加盟されました。緑の少年団立ち上げにご尽力いただきました皆様に感謝申し上げます。

平野地区には、野川、長井ダム、不伐の森等、教育資源が多くあり、緑の少年団の目的でもある次代を担う子供たちが森林環境学習などにより、ふだんはあまり意識していなくても、実際、自然に触れて体験することで当たり前のようにそこにある森林が、私たちの暮らしを支える様々な機能を果たしていることなどを学ぶ場でもあると思います。本市として、この活動を今後どのようにサポートしていくのか、展望を含め、農林課長に伺います。

2点目です。本市では、長井市環境保全基本条例に基づき、長井市第五次総合計画や、環境に関連する計画の長井市国土利用計画、長井市景観計画等との整合を図り、国内外の地球

温暖化の取組動向を踏まえ、長井市環境基本計画が策定されており、長期的な視点に立った地域森林づくりの構想については、長井市森林整備計画にて示されております。

カーボンニュートラルは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出を全体としてゼロとすることであり、これを達成するためには、温室効果ガスの排出量の削減に加えて、吸収作用の保全と強化を進めていく必要があります。そして、この吸収作用の強化に向けて、最も高い効果が期待されるのが、森林が有する地球環境保全機能であります。森林整備は、環境保全機能の向上に大きく寄与する一方で、森林による炭素の長期・大量貯蔵に向けては、その整備だけでなく、適期の伐採と、その後の植林を行う再生林の取組を推進するとともに、森林資源を有効に利用する好循環の仕組みを構築していかなければなりません。本市総面積の約7割を森林が占めており、豊かな森林づくりは地球温暖化に歯止めをかける重要な取組でありますので、今後重点的に取り組むべきと考えます。

温室効果ガスの排出削減に向けた再生可能エネルギー設備導入補助などの施策や様々な検討など行われておりますが、カーボンニュートラルの実現に向けて、森林が有する炭素の長期・大量貯蔵機能が最大限発揮されるよう、今後どのように取り組まれるのか、市長のお考えを伺います。

次に、山岳観光について伺います。

本市は、やまがた百名山に熊野山、葉山、祝瓶山が選ばれており、登山の難易度が初級、中級、上級とそれぞれ分かれております。異なる性質の山を有していることや、市内中心部から登山口までの距離が近く、温泉施設もあり、幅広い層の登山者を迎え入れることができる環境にあると思います。そして、山岳・自然観光推進活動として地域おこし協力隊員を募集し、現在まで登山や環境を生かしたアクティビティー

の創出、維持管理の業務などを進めていただくとともに、山岳イベントの企画や、山々を紹介するパンフレットの作成など、山岳観光の魅力発信から環境等、大きく前に進めていただいたと感じております。

そこで、本市の山岳観光における今後について質問させていただきます。

登山の魅力は、何といたっても自然のすばらしさを堪能できることではないでしょうか。特に一生懸命登った先に待っている頂上からの景色は格別であり、自分の足で到達した頂上からの景色に心地よい達成感と感動があります。この感動を味わうために山に登っているというベテランも多いと聞いております。もちろん途中の行程も自然のままの姿であり、ふだんの日常生活では見ることができない景色を存分に楽しむことができ、心身のリフレッシュ効果も抜群であると言われております。また、山は1日として同じ日はなく、天気や季節ごとに飽きない魅力を見せてくれることから、登るたびに新しい発見ができることも登山の魅力です。同じ山でもルートを変えるだけで全く違った側面を見せてくれるなど、奥の深い魅力があると思います。

このように多くの魅力のある登山は、登山道を整備していただいている方のご協力により支えられており、本市でも山岳会の皆様をはじめ、地区関係者の方などにご協力いただきながら整備されてきていることに心から感謝いたします。イベントなどを開催し、登山道整備ボランティアを募集しているところも多くあるようですが、登山道を維持していく作業は、ほとんど重機を使えないため多くの人手がかかることに加え、標柱や看板等の設置などもありますので、資材購入などの資金も必要になるなど、課題も多くの現状です。

そこで、1点目ではありますが、地域の山岳資源を楽しめる環境づくりの土台である登山道整備について、今後どのように進めていくのか産

業参事に伺います。

次に、2点目であります。本市では、市内の小学生、高校生による葉山登山や、葉山、祝瓶山民衆登山、またテレビや雑誌で紹介され、大人気であった熊野山夜明けトレックなど、やまがたアルカディア観光局などによる情報発信の効果などもあり、今後、登山者の増加が見込まれております。バイオトイレのような自然環境と利用者に配慮した快適で衛生的なトイレを整備することで、登山者の満足度と集客の向上につなげていく必要があると考えますが、産業参事の見解を伺います。

3点目ではありますが、コロナ禍は登山の傾向を変化させております。1つは、初心者が増加です。ある調査によれば、登山経験者が1年未満の人は、一昨年は3人に1人の割合でしたが、昨年は2人に1人と、初心者が増えていたそうです。また、登山の禁止や自粛の影響からか、遠くて高い山から、近くて低い山へと、行き先が変化してきているということでありました。

このようなことから、自然に関する情報や登山道情報の提供、また観光利用者や登山初心者向けに、登山の服装等のマナーや心得などを伝えるビジターセンター機能がとても重要だと考えます。自然体験や環境学習、水循環・水文化などをテーマに交流を図っていただき、長井ダムの麓に位置していることから、長井ダム水源地域へのアクセス拠点としても利用されている野川まなび館は、熊野山や祝瓶山登山にとって場所的、環境的にもビジターセンターとして最適と考えます。

また、葉山登山白兔口である葉山森林公園は、昭和63年長井市地域活性化事業の第1号の指定を受け、白兔地区民の手で造成され、平成11年から平成14年にかけて県の生活環境保全林整備事業により整備され、これまで地区民により大切に維持管理されてきております。登山口であることもあり、今後ビジターセンター的機能が

必要になってくるのではないかと考えますが、産業参事の見解を伺います。

4点目であります。市内中心部から登山口までの距離が近いことや、日帰り登山が可能であることなどから、今後宿泊滞在型ツアーなどの企画も検討してはどうかと考えます。

これまでもやまがたアルカディア観光局では、熊野山夜明けトレックや山岳イベントの開催、季刊誌「アルカディア」においては大きくきれいな写真を使いながら、本市山々の魅力紹介がされております。山岳イベントなどで配付している山岳ロゴステッカーやワッペンはとても喜ばれており、今後も続けていただきたいと思えますし、フラワー長井線を利用し、最寄り駅下車から始まる登山なども検討していただくなど、特別な山岳ツアーを企画していただきたいと思っております。産業参事の今後のお考えを伺います。

5点目であります。市道置賜西部2号線の長井市区間では、豊かな森林が広がり、初夏の新緑、秋の紅葉など、変化に富んだ景観を堪能でき、三階滝や、葉山登山の草岡口、勸進代口、白兔口があるほか、通り沿いでは民間主導による様々な整備が進められ、本市のこれからの観光につながっていくものと強く感じております。この周辺は山岳観光においてとても重要なエリアになってくるものと思えますが、今後の展望など市長のお考えを伺います。

以上で壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。

○浅野敏明議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 渡部正之議員から大きく2点、ご質問、ご提言をいただきました。私からは7点あるご質問項目の中の2点についてお答えをさせていただきますと思います。

まず最初に、カーボンニュートラルを目指す森林づくりの推進についてでございますが、議員からは、山との接点が少なくなっている

今、その環境を守り、育てていくことを再度考え、次代へとつなげていくことが重要と考えているということから、(2)のカーボンニュートラルの実現に向けて森林が有する炭素の長期大量貯蔵機能が最大限発揮されるよう、今後どのように取り組むのかというようなご質問でございます。

まず最初に、長井市は、特に私はカーボンニュートラルを目指すときに、いかに私どもが日常生活、あるいは産業活動で使っているエネルギーを脱炭素で賄うかというような視点から、考えてきているんですね。ですから、渡部正之議員からいただいたこの今回のご提言というのは非常に新鮮でございますけれども、非常に難しい課題だなと、実は思っております。

2019年度における森林の二酸化炭素の吸収量、これは私から申すまでもなく、国内で約4,290万トンとされまして、前年から1割減少しているという報告だそうでございます。温室効果ガスの排出量を2050年に実質ゼロにするには、成長期で二酸化炭素吸収量が増える若い森林の整備が欠かせないと言われております。また、林野庁によりますと、1世帯から1年間に排出される二酸化炭素の量は、2017年の場合、4,480キログラム、4.4トンぐらい家庭で出すんですね。この排出量を40年たった杉が1年間で吸収する量に換算した場合、杉509本分の吸収量と同じぐらいとされまして、とてつもない森林量が必要と推察されます。

これは渡部議員ご指摘のとおり、炭素の長期大量貯蔵機能を最大限発揮するには、現在の森林資源を適切に保全し、再造林し、好循環の中で緑の資源を守り続ける必要があると考えております。長井市の森林面積でございますが、総面積の3分の2に当たる約1万4,600ヘクタールでございます。長井市の総面積が大体2万1,000ヘクタールちょっとですから、3分の2が森林面積だと。改めて長井市はすごい森林の

多いまちだと思っておりますけれども、木材生産が主目的の人工林が約3割、その半数が終戦直後や高度経済成長期に植えられ、計画的な伐採や植え直しが重要となっておりますが、進んでいないというのが現状でございます。

また、今年には住宅建築の需要拡大による木材価格が高騰するウッドショックが起きましたが、川上の経営体、造林する事業者まで恩恵が及んでいないのが実態で、再造林の機運につながっておりません。国土の保全や水源の涵養など、森林の持つ多目的機能の維持に加え、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの吸収機能を高めるため、急ぐべきは山の整備と言われております。所有者が分からず放置された森林を林業経営者に委ねる森林経営管理制度というものがあるんですね、これを進めなければならないと。しかし、正直なところ何をしたらいいか分からないというのが私ども長井市のというよりも、市町村全てが多分そうだと思います。

保全管理された林道の整備を急ぐべきだと言われておりますが、林道の整備って、私が知っている範囲でここ二、三十年ぐらいしてないですね。やったとしたら、災害等で壊れたところの復旧ぐらいで、だから林道の整備なんてほとんどないんですね。そういう実態をご存じだと思うんですが、ですから、そういう意味では、やっぱり渡部正之議員からご提言いただいたことは大変重要なことだと思っております。改めて認識しました。

ご承知のとおり、令和6年度より、再来年からですけども、1人当たり年間1,000円の森林環境税が徴収されます。これを原資に国が地方自治体に森林環境譲与税として配分して、山村の活性化や森林の適正な整備、保全に活用されることとなっております。人口の多い自治体への配分率が、人口配分というのがありまして、これが多いんですよ。しかも民有林と国有林で、民有林が多いところにいっぱい行くんですね。

長井市は置賜3市5町の中で一番低い。年間800万円。これしかないということなのですね。

一番低いのが、私どもと隣の川西町さんも低いって言われていますが、この800万円で何年か分をためて、航空写真で、要は上からいわゆる民地と官地の所有の境っていいですかね、それをきちんとすることがまず先決だと言われていまして、ですから、その800万円しかないわけですから、多分長井市の航空写真とか撮ると、最低ほかのまちと一緒にしても、二、三千万円はかかるんですね。そうすると、3年分とか4年分かけてためて、それで写真撮って終わりですよ。こんなお金で何もできないですよ。

ですから、私どもで特に言っているのは、その人口配分というのはもっと低くすべきだと。やっぱり面積でしょうというのが我々の意見なのですが、なかなかそれが国に届いてないというのが実情でございまして、しかも例えば長井市の場合ですと、林業を生業となさっている方は本当に数名しかいらっしやらないって聞いています。やっぱりいろんな統計あるんですが、出てこないです。

ただし、あの方はこういうことやっている、あの方はこういうので頑張っているんじゃないかということをお聞きなどしますと、やはりそういう頑張っている方いらっしやるので、そういう方々と一緒になって、今後どうするかということと、あとは長井市内では先ほど、一番最初に緑の少年団のお話、ご提言いただきましたけども、久しぶりに復活したわけですね。もう30年前ぐらいまではあったんですよ。西根にもあった、平野にもあった、伊佐沢にもあったんじゃないかなと思うんですが、それがなくなっているんですよ。それはそうですよね。だって林業なんて関係ないってみんな思っているわけですから、山なんか入ったことない人ばかりですよ。

しかも平野の共有地組合さんなんかは、もう

数百ヘクタールの相当大規模な山林を所有して、それをうまく活用なさっていますけど、ほかのところはその生産森林組合ってそれぞれ大字ごとに大体あるんですけども、そこから何もお金を生み出すことができずに、むしろいろんな税金とか管理費で、会費を出して、それに充てなきゃいけないということで、もう何とかそれを市で受けてくれないかと、私どもにも何回か打診などがある、そういった実態なのですよ。ですから、今後どうするかというのは非常に難しいと思っております。

なお、私も16年目になりますが、全国市長会の中の林政問題に関する研究所の委員として、勉強はしておりますが、不満だらけで何を言っているかよく分からないと。やっぱり森林を活用している都道府県、いっぱいあるんですよ。特にすごいなと思ったのは九州の、例えば宮崎県とかですね。すごいんですよ。あと、山形県内でも最上のほうとかすごいですよ。東北は秋田県も、もういろんなところ、もちろんあります、青森県も。ですから、そういったところに学ぶ必要があるのかなと思っております。

なお、森林整備、森づくりにおいて、今、私どもとして何とかお力添えをいただきたいと思っているのは、全国的に企業さんで森づくり活動の取組の事例がございまして、注目しているところです。企業がCSR、これは企業の社会的責任活動の一環として、森林を無償で借り受け、企業等と県や地元市町村との間で森林管理の協定を結び、企業や団体、地域住民等が植栽や下草刈りなどに参加しながら、目的に合わせた森林づくりを行うというものでございまして、いわゆるこういった森林づくりに企業が社会貢献することによって、カーボンニュートラルに資していこうと、我々もそれを実現するために頑張ろうというような活動です。

企業の森づくり活動のメリットとして、林野庁が2019年に国内の企業を対象に実施したアン

ケート調査によりますと、企業が得られた効果として一番大きかったのが社会貢献で、全体の66.4%で、2番目は54.7%の地域交流、3番目は40.1%の事業活動による環境負荷の低減という結果になっているようでございます。

行政の役割としては、フィールドの提供やら企業と地域社会とのかけ橋、企業の取組をPRなどする。さらには森林組合等による森林保全活動技術指導により、多様な主体が森づくりに参加することで事業が広く展開することが期待できます。幸いにも現在、西置賜森林組合の組合長が、元長井市議会の議長もなされた小関勝助組合長でいらっしゃるの、ぜひそういったことなどでご指導いただきながら、何らかの形で私どももカーボンニュートラルに、この森林づくりの面からも、林業を振興するということからも取り組んでいきたいと考えておりますので、引き続き、ご指導いただければと思います。

続きまして、2点目の山岳事業についてでございますが、本市は異なる性質の山を有していることや、市内中心部から登山口までの距離が近く、温泉施設もあり、幅広い層の登山者を迎え入れることができる本市の今後の山岳観光についてご提言いただきました。

議員からは、(5)として、置賜西部2号線の長井市区間周辺は山岳観光においてもとても重要なエリアになってくると思うが、今後の展望などの考えはということでございます。いわゆる広域農道ということで、白鷹町から長井市の西山の麓を通過して飯豊町に、そして国道113号につながる道路でございます。

これは議員おっしゃるとおり、この沿線には野川まなび館、長井あやめ温泉や古代の丘、さらには葉山への3つの登山口と葉山森林公園があります。加えて、飯豊町にはゆり園、白鷹町についても12の桜に通ずるルートになっております。県内初のラウンドアバウトもありますの

で、ドライブにも大変よい道路だと思っております。また、最近では長井あやめ温泉の隣地にシャクヤク園が整備され、旧横森スキー場の裏手には花を楽しめるガーデンを整備していただいているようでございまして、来訪者が増えているとお聞きしております。このほかにも景色が大変よいポイントもありまして、観光道路としては極めてポテンシャルが高い道路であると考えております。

そういった意味では、この道路そのものを使った観光周遊企画もつくれると思っております。西根地区でも様々な構想をさせていただいておりますが、古代の丘ではワイン用のブドウの植栽もいいのではないかと。ほかには例えばホースセラピー、馬ですね、放牧場としても活用できれば、例えば観光牧場などにもつながる酪農の集積として、乳製品の販売などにもつながりますし、あと草岡ハムなどの体験コーナーなども考えられるし、非常に面白い資源がたくさんあります。最近ではオートキャンプ人口も増えておりますので、桜湯との組合せなども想定できるものではないかと思っております。アウトドア志向が高まっている今は非常に可能性のあるエリアだと感じているところです。

この道路を生かすには、今申し上げましたそれぞれの施設の活用方法も大切になりますが、まずは長井ダムや花観光に来られたお客様に長井のもう一つの楽しみとして、観光ルートとして活用いただけるよう、そしてそこからまたさらに山岳観光につなげていきたいと考えているところでございます。

私からは以上です。

○浅野敏明議長 佐々木勝彦農林課長。

○佐々木勝彦農林課長 私には大きい問1の(1)の緑の少年団の活動を今後どのようにサポートしていくのかということでご質問いただきました。お答えいたします。

今年5月13日、平野小学校に3年、4年の42

名の児童によります緑の少年団が結成されまして、本市のフェイスブックにもその様子をご紹介させていただいたところでございます。議員ご紹介のとおり、平野地区には野川や長井ダム、そして不伐の森など教育資源が豊かで、以前より平野地区の水と緑の感謝祭に取り組んできた経緯から、さらに発展した活動につなげるため、地域の皆さんの後押しやご協力があつて結成されたところでございます。

緑の少年団は、次代を担う子供たちが森林での学習活動、社会奉仕活動、キャンプなどのレクリエーション活動を通じまして、自然を愛し、人を愛し、社会を愛する心豊かな人間に育っていくことを目的とした子供たちの自主的な団体でございます。全国的に組織され、山形県でも緑の少年団は昭和49年に結成されて以来、地域の緑化活動の重要な役割を果たしてきました。先ほど市長のほうからもございましたとおり、本市におきまして昭和50年から昭和60年代に少年団が結成されまして、その活動支援を行ってまいりましたが、活動が途絶えて今日に至っております。令和4年度現在、県内には57団体、3,349名の団員が加盟し、置賜地区では平野小学校も含めまして6団体、221名の団員が交流研修会や緑の募金活動などの活動を行っているところでございます。

山形県議会におきましても、6月定例会期間中、県議会ギャラリーで森林での学習、社会奉仕、レクリエーションなどを活動の柱とする山形県緑の少年団の各地域における活動状況を写真、パネルなどを用いて紹介されたところでございます。結成された今年度につきましては、キノコの植菌や他少年団との交流研修、置賜林業推進協議会によります「おきたまの森」ホームキャンプ事業で、団員全員に杉の苗木とポットが配られ、来年度平野地区が主催する「水と緑の感謝祭」において21世紀不伐の森に植栽する事業に取り組んでいく予定でございます。

本市におきましては、みどり豊かな森林環境づくり推進事業でキノコの菌打ち体験などの木のぬくもり体感事業、21世紀不伐の森の保全活動を行う水源の森復活事業を実施しているところでございます。しかし、このような地域と一体となった森林活動を体験する少年団活動がさらに活発化し、そして活動が広がるように支援しなければならない、このように考えているところでございます。

このたびの設立は、森林環境学習を大切にすする平野小学校の取組によるものですが、市内小・中学校でも学校の敷地の片隅に地域本来の自然の森をつくったり、あるいはビオトープをつくったりして、学校の緑を豊かにし、環境教育に力を入れております。このような緑に親しみ、緑を愛し、緑を守り育てる活動や、緑の少年団の設立が各地域、各校に広がり、浸透するように啓蒙し、取組を支援しなければならないと考えております。

なお、少年団によります植栽事業の継続と、団の活動のための支援策につきましては、来年度検討しているところでございます。

○浅野敏明議長 赤間茂樹産業参事。

○赤間茂樹産業参事 問2の山岳事業につきまして、4つご質問いただきましたので、順次お答え申し上げます。

まず初めに、登山道の整備について今後どのように進めていくかの部分につきましてですが、市で管理しております登山道につきましては、朝日連峰を中心といたしました登山道になっております。朝日岳周辺は国の国立公園になっておりますので、環境省、山形県、山を取り巻く市と町が分担して管理をしているところがございます。この管理区分に沿って管理しておりますが、一部この区分に入っていない箇所もあるという状況でございます。例えば葉山の登山道ですけれども、長井市で管理しているのは草岡ルートでございまして、そのほかの勧進代ルート

と白兔ルートにつきましては地元で整備していただいているところがございます。あと、やまがたアルカディア観光局で夜明けのトレックなどで利用している熊野山につきましても地元で管理していただいております。

市で行っている登山道の管理で課題だと思っていることにつきましては、それぞれ山岳団体に委託しているわけですが、年々委託を受ける団体の方々の年齢が高齢化してきております。また、作業する場所というのは歩いて登っていかないとその現場にたどり着けないということで、作業時間も限られてきます。こうしたことから、各山岳団体ではなるべく大勢人を集めて実施していただいているというのが現状です。

今後なのでございますけれども、これらが多分ますます条件が悪化してくることが考えられますので、例えば今、無理してボランティアも含めてルートを保全している、いわゆる朝日軍道、草岡登山口から葉山の山頂を経て中沢峰、御影森山、平岩山と行くルートですが、ここは非常にその場所に行くまでも時間がかかるルートということで、今後検討が必要だなど、山岳関係者から言われております。要は受け手がないという状況が、もうそこに来ているということがございます。

このようなことから、地元対応ということにもう多分限界があるということで、今後考えられることとしては、全国からボランティアを募って行ったらどうだというようなことがございます。その全国からボランティアに集まっていたくには、やはり長井市内の山岳のファンを増やす必要がありますので、長井市内の山岳の知名度も上げるということから、株式会社モンベルとの連携協定や、それから地域おこし協力隊にも頑張ってもらっておりますので、そういった活動が続けることが非常に重要だなど思っているところがございます。

続きまして、バイオマストイレの必要性についてお答え申し上げます。

やはり山岳観光で一番大切なのは、やっぱりトイレだと思います。特に昨今、女性の登山者が非常に増えてきておりますので、さらに衛生面の環境整備というのは必要になってきているなど考えております。現在、市で管理しているトイレは3か所ございますけれども、祝瓶山荘のところと、葉山森林公園のところ、それから山頂にあります。いずれもくみ取り式でございます。衛生的にはよいとは言えない状況だと思います。

こういったトイレの環境改善のために、これまでも環境省とか観光庁の事業メニュー、様々当たってきておりますけれども、なかなか長井市の場所で該当するような事業が見いだせなくております。それは例えば環境省ですと、自然公園内の場所が対象だったりとかというようなことがございます。こういう状況でございますけれども、今後も国や県に相談して、トイレの整備の可能性を探してまいりたいと考えているところでございます。

3つ目といたしまして、ビジターセンターの機能が必要ではないかということについてお答えいたします。

山岳観光を進める上では、ご指摘にありましたとおり、道路や山岳方面を安全に楽しんでいただくための情報提供、あるいは入山者に守ってほしいマナー、そういったものの情報を発信する場所が必要だと考えております。ご提案いただきましたとおり、野川まなび館、そして葉山森林公園の兎夢創観については、まさに適している場所ではないかなと考えております。野川まなび館につきましては、昨年からやまがたアルカディア観光局に管理を委託しております。これからはモンベルのフレンドショップも開設する運びになっておりまして、徐々に

ビジターセンターの機能が充実してきております。

また、既に漁協からの委託を受けまして、遊漁証の発行もしているところでございます。ただ、利用状況は非常に少ないと伺っておりますので、認知度が低いのだなと思っております。野川まなび館自体も県道から少し離れた場所にありますので、そういった面からも何らかのまなび館の機能を示すような看板などが必要なのかなと思っております。また、葉山森林公園のほうは無人の施設になりますが、こちらも何らかの表示をして葉山の情報の発信をしなければならないと思っておりますので、地区の方々とこれから相談していきたいと思っております。

野川まなび館につきましては、ビジターセンター機能のほかに建設当初から水源地域の活動拠点としても活用していきたいということで建設された建物でございますので、野外で活動するNPOや山岳に限らず植物などの愛好会の団体などの活動拠点となるよう、今後生かしていかなければならないなと思っております。

そういったことで、活用していけば人も集まり、情報も集まり、それから市外の方々も来られるようになりますので、山岳観光の玄関口としてビジターセンターの機能が果たせていくのではないかと考えております。

あと、4点目、今後の宿泊滞在型ツアーなども山岳を生かして企画してはどうかということで、お答えいたします。

議員からご紹介いただきましたとおり、熊野山夜明けトレックにつきましては、地域おこし協力隊と、あと葉っぱ塾のほうでご協力いただきまして、大変人気が高くて、何回も実施しております。こういう企画につきましては、やはり宿泊も伴うということから、非常に長井市の観光にとってもいい企画でありまして、今後も続けていきたいと思っております。また、タスパークホテルも事業参画しておりまして、冬に

1泊2日の雪灯り回廊まつりと熊野山スノーレッキングを体験するツアーなどをホテル主催の行事として開催していただきました。こういった取組も非常に今後必要なのかなと思っております。

議員からご提案いただきました特別な山岳ツアーですが、様々考えられる中で、例えばフラワー長井線を利用し、白兔駅から葉山神社、葉山神社から葉山山頂の参拝などという、そういった山岳信仰も兼ねたような企画なども考えられますし、様々なニーズがあると思っておりますので、こういったこともやまがたアルカディア観光局と相談しながら進めていければと思っております。ただし、いずれにしても一番大事なのはそのお客様をちゃんとご案内できる人でありまして、そういった山岳ガイドのできる人の育成も必要になってまいりますから、山岳観光全体として方策を検討してまいりたいと考えているところでございます。

○浅野敏明議長 3番、渡部正之議員。

○3番 渡部正之議員 ご答弁いただきました。

やはりこの最初のカーボンニュートラルという部分で、ちょっと山のほうの環境というところに視点を置かせていただいたわけでありまして、前回なんかは森林環境譲与税、こちらは基金に積み増しをして災害であったり、様々なそういう区画を整備していくような、そういったところに使っていきたい。ただし、やはり先ほど市長よりご答弁いただきましたが、少額であり、そういった大規模に進めていくようなことがなかなか難しいということでありました。

私このたび環境という観点から山の整備とさせていただいたのは、やはりこの若い世代、これから長井市で住んでいくこの若い世代なども本当にテレビやマスコミ等でもありますとおり、やっぱり環境に対する考え等が出てきておりまして、そういったところにも関心が出てきてい

るところではないかなと思ったところです。緑の少年団の活動なども、やはり森林の大切さを学ぶ機会でありまして、そういった活動をぜひサポートしていただいて、平野小学校さんだけでなく、今後市内の小学校の広がりを持たせるとか、そういった方向を示していただきたいと思っています。

やはりこのまちの産業だったり、先ほど市長からもありましたけれども、日常生活、こういったところにつながってくるのが市民一人一人の意識の向上だと思っています。そういった意味では、本市として環境審議会の中で環境基本計画の策定に関する事など地球温暖化対策部会と自然環境保全部会に分かれてなさっていると思います。この取組の中で地域の合意形成とありますけれども、令和4年度にそういう取組をしていると思われましてけれども、やはりそういった機運の醸成でありますとか、山へ向かうこの関心を醸成するような、そういった取組を本市として強くしていただきたいと思っています。

今やはり環境にそういった関心を持っている若い世代がいるという、そういったところも踏まえまして、ここが契機かなと思っています。確かに先ほどありましたとおり、山、林業の衰退などによって若い世代が山になかなか向かなくなってきたとありますが、やはり環境といった意味でも、本市として力を入れていっていただきたい。その思いで質問させていただきました。

再度、市長にお伺いいたしますけれども、周知、広報という部分をぜひこの環境審議会など出てきたものをしっかりと本市として市民にお願いであったり、周知できるような環境を整えていただきたいと強く思いますけれども、市長の考えを再度伺います。

○浅野敏明議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

渡部正之議員の熱意は分かりますけれども、やっぱり一番難しいのは、例えば地域おこし協力隊の中で、林業に結構就くという人が多いんですよ。そういうふうな事例はたくさんあります。なぜだか分かりますか。そういうふうに地域で受け入れているからですよ。けれども、残念ながら長井市にはそういうふうに地域で受け入れるところがない。すなわち林業を生業にしている方が、先ほど申し上げましたように少ない。それを我々行政できますかという話なのですよ。

ですから、むしろそこが一つのポイントなのです。どういうふうにして林業を、じゃあもう一回再興させるかっていったときに、確かに長井市でも市有林はございます。けど、もう市行造林とか、いろいろな造林できるところはやっているんですよ。むしろこれを切り出して使いたいんですけども、なかなか採算的に合わないということで使ってないわけですけども、やっぱり長井市っていいですか、置賜地域が山形県の中で一番森林の活用率が低いと言われておまして、とりわけ長井市なんていうのはほとんど使われてないですよ。

一方で、そういう持っても、所有していてもしょうがないということで、どんどん市外の、あるいは外国の方に買われているという実態が長井市でも徐々に出てきたと思っております。そういったその森林を我々長井市でどれだけ、じゃあカーボンニュートラルに資するようにできるか。それはむしろ渡部正之議員から提案いただきたいですよ。どうするんだって我々に言うよりも、一緒になって考えましょう。これが大切なことだと思います。だって我々、林業者をつくることはできないですよ。募集することでもできないです。やるとしても、やはり先ほど申し上げましたけども、西置賜森林組合さん、ここで実際に植林なさったり、伐採なさったり、あとは管理されているわ

けですから、そういったところでやっぱり一緒になって募集して、やりたいという人を育てる、ここから始めなきゃいけないですよ。

あと、森林を所有されているのはほとんどが個人の民有林というのもいっぱいありますけども、一番は多分手に負えないと思っておられる生産森林組合なんですよ。これは伊佐沢でもね、多分五十川とか、白兔とか、みんな山をお持ちのはずなので、そこをどういうふうに生かしていくかというところをむしろ一緒になって、市で何か考えろではないですよ。考えようがないです。何しろ長井市の農林課のほうに担当はいますけども、担当で山へ行ったことある人ってほとんどいないですよ。実際の山ですよ。林道ぐらいは入ったことは、もちろんあるわけですが、多分、赤間参事とか、それから今、農林課の補佐とかあたりぐらいしかいないんですよ。いや、本当に市ですらない。そういう状況なので、カーボンニュートラルの視点というのは非常に新しい視点なんですけど、相当難しいです。

したがって、これはずるい言い方ですけども、私のほうとしては、お金もないわけですから、だから民間のいわゆる市有林を民間に植林してもらおうということでの発想で、一応今、声をかけさせていただいているところはあります。大手の企業さんなのですけども、もしかしたらご活用いただければ、そこから何か活路が見いだせるかもしれません。

やっぱり長井市でできるというのは、お金もない、人もいない、ノウハウもない、ないないづくしなんですよ。それはむしろ私から言えば、今回、渡部正之議員は林業の担い手でいらっしゃいますから、何かいい提案をいただけるのかなと思って期待しておったんですが、今後ともよろしく願いいたします。すみません、長くなりました。

○浅野敏明議長 3番、渡部正之議員。

○3番 渡部正之議員 ぜひ一緒に私も考えていきますし、やはり危機感を持っているんですよ。山守らなくて、やっぱり災害なんかもすごく怖いですし、そういったところの意識を高めていかなければならないなと私自身、思っておりますので、そういったところで一緒に考えていきたいなと思っております。

あと、山岳観光についてでありますけれども、やはり市内中心部から登山口に近いということで、やっぱり条件的にも恵まれておりますし、こういった観光については先ほど内谷議員の質問の中での答弁で、やはりインバウンドのそういった広がりも出てきているということでありますので、ぜひそっちの方向でもよりよい山岳観光に進めていただきたいと思います。

以上で質問を終わります。

○浅野敏明議長 ここで暫時休憩といたします。再開は午後3時20分といたします。

午後 2時58分 休憩

午後 3時20分 再開

○浅野敏明議長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

それでは、市政一般に関する質問を続行いたします。

竹田陽一議員の質問

○浅野敏明議長 順位5番、議席番号5番、竹田陽一議員。

(5番竹田陽一議員登壇)

○5番 竹田陽一議員 共創長井の竹田陽一です。本日最後の質問者になりますが、よろしくお願